



大豆づくりは土づくりと排水が決め手！

1 大豆好みの土づくりを

- ◎ 排水の良好なほ場が第1条件。 (湿害防止)
- ◎ 有機物の積極的な施用「堆肥や鶏ふんなど」。 (土づくり)
- ◎ 苦土石灰(100kg/10a)を施用、最適pH6.0~6.5 (酸度矯正)

【湿害防止】

耕起前に、ほ場周囲に明きよを掘り、確実に排水溝につながります。
播種後は、ほ場の中央にも深さ30cm程度の溝を掘るなど、排水対策は万全に!
排水対策と増収が期待できる「小畝立て深層施肥播種技術」展示ほを設置します。興味のある方は各普及課までご連絡ください。

【土づくり】

大豆は地力依存度が高い作物であり、子実生産の90%以上を地力と根粒由来の窒素に依存しています。このため、地力や根粒活性が低下すると、稔実莢数や百粒重の減少により収量が減少します。堆肥などの有機物を積極的に投入しましょう。

【施肥・播種作業】

- 基肥の基準施用量は、窒素2~3kg/10a、りん酸6~8kg、カリ10~12kgです。
- 種子処理(忌避、殺菌、殺虫)を行い、播種量は4~6kg/10a、
播種時期は5月20日~6月10日までに行いましょう。
- 品種や播種時期に応じた栽植本数を確保しましょう。
例) 畦幅75cm×株間20cm×2本立て=約13,300本/10a
- ネキリムシ類(タマナヤガ)の発生は平年並と予想されています。成虫は広葉雑草などに産卵するので、播種前からほ場周辺の除草に努めましょう。

2 耕種的防除と除草剤を上手に組み合わせて雑草から大豆を守る

適期の播種で生育量の確保(葉の陰になるだけで光不足で雑草はかなり抑えられます)と適期中耕培土(適期に行うためには、排水対策も重要)が大切です。

除草剤をしっかり効かせるための”3つのポイント”は、①碎土率を高める、②タイミングを逃さない、③ほ場の水分状態を確保する(水たまりでは効きません)です。

近年、外国から侵入した「**帰化アサガオ類**」が大発生し大変な問題になっています！

置賜管内の一部大豆ほ場でも発見されています。
帰化アサガオには、丸葉のものやオレンジの花のものもあります。
はじめは、ほ場周辺から発生することが多いようです。

①刈り取る~花が咲いたら直ちに防除・種子を作らせないこと！

- ・地際から刈り取ってください。(再生防止)
- ・刈り取った草を放置しない。(種子は後熟します)

②帰化アサガオ類に効果のある除草剤を使用する



マルバルコウ

ホシアサガオ



農作業事故が発生しています！ゆとりある作業計画を！